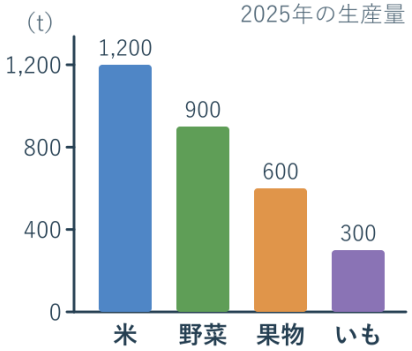
伝えたいことに合う統計グラフ（棒・折れ線・円・帯）

調べた統計を発表するとき、伝えたいことに合うグラフはどれか

例：架空のA市の農業（数値は架空）

1 量をくらべる

棒グラフ



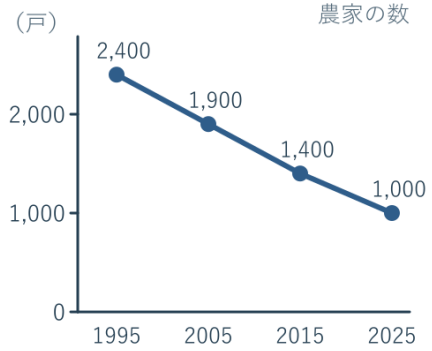
✔ ものごとの量の大小

読むときの注意

目盛りは0から。
単位（t）を見る。

2 変化を見る

折れ線グラフ



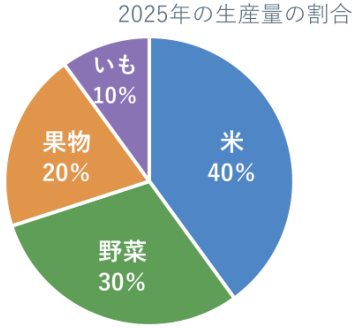
✔ 年ごとの増え方・減り方

読むときの注意

年の間かくを見る。
年次をたしかめる。

3 割合を見る

円グラフ



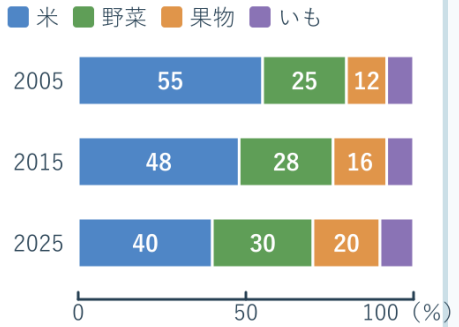
✔ 全体の中の割合（内訳）

読むときの注意

合計が100%。
何の割合かを見る。

4 割合の変化を見る

帯グラフ

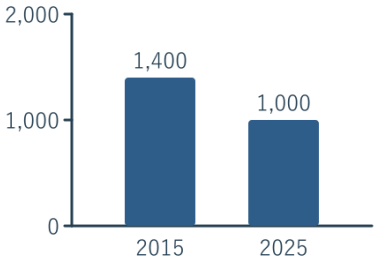


✔ 内訳の移り変わり

読むときの注意

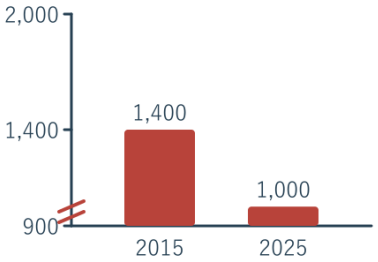
帯の長さはどれも100%。
割合と量はちがう。

目盛りの始まりで、見え方が変わる（農家の数　2015年→2025年）



✔ **0から始まる目盛り**

減り方（約3割）を
そのまま見られる。



✘ **900から始まる目盛り**

同じ数なのに、大きく
減ったように見える。

読むときは

目盛りの始まり
単位（t・戸・%）
年次と出典
をたしかめる

※ A市と数値は架空の例。実際の統計を使うときは、統計名・年次・出典を書く。